

## 魅力ある併置型特別支援学校を目指す学校経営 IV

企画者	田村康二郎（東京都立光明学園）
司会者	諏訪 肇（東京都中部学校経営支援センター）
話題提供者	阿部 智子（東京都立多摩桜の丘学園）
	庄司 伸哉、藤上 実紀（東京都立鹿本学園）
	田村康二郎、遠 直美（東京都立光明学園）
指定討論者	丹野 哲也（文部科学省）

KEY WORDS: 併置校、学校経営、複数の障害対応

### 企画趣旨】

平成19年4月に改正学校教育法が施行され、それまで異なる学校種として規定されていた盲学校、聾学校、養護学校が、障害の種別を超えた学校制度である特別支援学校に一本化された。この法令改正以降、複数の障害教育部門を併置する特別支援学校や多様な障害のある児童・生徒を対象とする総合型の特別支援学校が年々増加している。

こうした複数の障害種を受け入れる特別支援学校の開設に当たっては、障害の重度・重複化に対応した指導の充実や通学の利便性を図ること、あるいは、地域のつながりを重視した教育の推進がその理由として推測される。

本シンポジウムでは、設置形態や地域性の異なる併置型特別支援学校3校に焦点を当て、その設置形態に基づく魅力ある併置校づくりについての学校経営上の工夫を話題提供した上で、今後の併置校の開設及び開校後の学校経営に資するための討論を行う。

### 【話題提供者の趣旨】

地域性や設置形態に特長ある3校（下記Ⅰ～Ⅲ）の併置化に伴う学校経営上の工夫と教育実践に関して話題提供する。

### 話題提供Ⅰ

学校名／公立A特別支援学校（平成20年4月開校）  
併置形態／近接する郊外地域を通学区域とした知部門と肢部門の2教育部門を併置する学校として開校、さらに別に所在する病院内分教室は肢体不自由部門に含まれる。  
設置学部等／肢部門：小中高・分教室、知部門：小中高  
計：2部門6学部及び1分教室

在籍者数／肢部門：85名、知部門：282名

知肢併置校として開設され、学校再編の動きの中で知的障害教育部門が移転、統合の流れの中、校名変更し新たに開校した、教職員206名の郊外地域の知肢併置校である。各部門の専門性を高めながら、併置校としてのセンター的機能を強化した取り組みや、全校教職員、児童・生徒、保護者が一体となれる全校共通の「活動テーマ」のもと、共生社会の形成を目指す学校づくりを進めている。また、郊外地域の立地特性を最大限に生かし、地域との交流、社会資源の活用、近隣住民への地域貢献としてのPTA活動との連携等、児童・生徒、保護者のための特色ある教育活動の充実に向けた取り組みを目指している。こうした一体的な学校経営の工夫について話題提供する。（阿部 智子）

### 話題提供Ⅱ

学校名／公立B特別支援学校（平成26年4月開校）  
併置形態／人口が密集する近接地域を通学区域とする肢・知の2部門を併置する学校として開校  
設置学部／肢：小中高、知：小中  
計：2部門5学部

在籍者数／肢部門：159名、知部門：272名

都市中心部において肢・知両部門に小・中学部を有する

初の併置校として開校し4年目を迎えた。在籍431名・教職員223名は圏内最大規模である。各部門の専門性を担保しつつ、魅力ある併置校であるために、両部門合同の作業学習や両部門が共通して取り組める読書活動を推進している。また両部門が利用できるオープン・ライブラリーやトークン・ルーム等の環境整備を行っている。地域支援面からも併置校の情報集積のよさを生かした誘致型支援を掲げ、教材展や指導技術研修を地域に公開している。さらに併置校の良さを生かした学生段階からの人材育成プランを実行している。こうした一体的な学校経営の工夫について話題提供する。（庄司 伸哉、藤上 実紀）

### 話題提供Ⅲ

学校名／公立C特別支援学校（平成29年4月）  
併置形態／人口が密集する近接地域を通学区域とした本校肢体不自由部門と、全圏域を対象とした寄宿舎制の本校病弱部門さらに別に所在する病院内分教室及び病院訪問教育も病弱教育部門に含まれる。この両部門の併置校として種別の異なる2つの母体校の機能を統合して開設した。  
設置学部等／肢：小中高、病：小中高・分教室  
計：2部門6学部及び1分教室

在籍者数／肢部門：本校175名、病部門：本校45名、

肢体不自由教育の拠点をもととする肢部門に併せて圏域内で唯一の寄宿舎制の病弱特別支援学校の機能を移転し、そこに病院内分教室や病院訪問の教育機能を統合した病弱部門を加えて2部門とした併置校である。開校後は両部門に準ずる教育課程で学ぶ生徒が在籍する特性を生かし、補習や放課後活動、合同学習の機会を設け、刺激を受け合う良さや学校の一体感づくりを行っている。また、両部門が担う在宅または病院訪問教育及び分教室の教育の充実を目指して、企業との共同研究を活用しながら、ICT機器を活用した教育推進に力を注いでいる。こうした一体的な学校経営の工夫について話題提供する。（田村 康二郎、遠 直美）

### 【指定討論の趣旨】

各地域で増加する併置校開設に伴う併置化対応では、各地域の実情やニーズに応じて様々な形態や方法が採り入れられている。今回話題提供された3校のケースは、都市郊外型と都市人口密集地型の肢・知併置校及び肢・病併置校とその立地特性や設置形態は特徴的である。

本シンポジウムでは、共生する社会の実現や特別支援学校卒業後も学び続ける子供たちの育成を推進する立場から、併置型特別支援学校に焦点を当て、多様な支援機能や様々な専門性を有する併置校の良さを見出して活用する学校経営について考察するとともに各話題提供の取組の成果及び今後の展望について言及する。（丹野 哲也）

【文献】全国特別支援学校実態調査（全特長会編）  
（TAMURA Kojiro, SUWA Hajime, ABE Tomoko, SHINYA Shoji, FUJIUE Miki, TANNO Tetsuya）